

パブリックコメントの実施結果について

■ 案件名

「萩市地域公共交通計画（案）」について

■ パブリックコメント募集期間

令和6年12月11日（水）～ 令和7年1月10日（金）

■ 意見等の提出状況

区分	持参	郵送	ファックス	Eメール	合計
人数（人）	1			3	4
項目（件）	1			13	14

パブリックコメントで寄せられた意見と市の考え方

別紙「萩市地域公共交通計画（案）」に対するご意見の概要と市の考え方のおり

■ 担当課（お問い合わせ先）

萩市地域公共交通会議事務局（商工振興課公共交通政策室）

TEL 0838-25-3583

「萩市地域公共交通計画（案）」に対するご意見の概要と市の考え方

ご意見の概要	市の考え方
<p>地域内交通として生活バスやぐるっとバスを無料で利用できるという点、私はとても便利で良いことだなと思う。私がもし免許を持たない高齢者ならば間違いなく公共交通を活用して外へ遊びに出るだろう。100円で山口へ出る方法もある。</p> <p>ただもう少し、公共交通を使ってもらう為に、利用者になりうる方々への周知の工夫が必要だなと感じる。具体的な使い方をチラシだけでなく実際の体験を通して示すことで利用者の増加を見込めるのではないかと考える。利用者がとても少ないのに多額の予算をかけるのは難しいだろうから、今後のサービス維持のためにも利用者の獲得は重要ではないかと思う。</p> <p>また、『交通DX技術』を使ったぐるっとバスの実証実験とあるが、これを進める際、同時進行で将来利用者になりうる世代の60代70代の方へDXに取り残されないための講座等を行うべきだと考える。</p> <p>例えばスマホの使い方講座やPC教室を各公民館で実施してみるとか。今もやっているけどもより効果的な社協で実施中のスマホよろず相談所のようなものを。提供する側がデジタル技術を使えても利用する側がそうでなければ意味がないので、未来のデジタルデバインド対策として今はまだ若い60代70代の方々に向けて早急にやるべきだと思う。</p>	<p>地域別の公共交通利用ガイド作成の検討を進め、市民の皆様のおでかけのきっかけづくりと、利便性の向上につながる情報提供に取り組みたいと考えております。また、公共交通の周知について、関係各課及び各地域と連携して、取り組んでまいります。</p> <p>DX・デジタルデバインド対策については、関係課に共有し、今後の検討を進めていく際、参考にさせていただきます。</p>
<p>当計画案は総じて今よりよくするといった抽象的記述。今回は大まかな方針と目標設定をただけで、具体的に何をするかはこれから検討するという事かもしれないが、具体的な事がなければ賛成も反対もない。</p>	<p>本計画は、計画期間中における公共交通の在り方についての方針を定めるものであり、現時点で具体的な事業は決まっておらず、必要に応じて予算措置してまいります。</p> <p>ご意見は、今後の検討を進めていく際、参考にさせていただきます。</p>

ご意見の概要	市の考え方
<p>「MaaS アプリ等の構築・実証」というのが何をしようとしてるのか不明。市や地域交通事業者でスマホアプリを開発しようとしてるならやめた方がいい。市でアプリの使い勝手をチェックし、交通事業者やアプリ提供元に要望を出したり、相手の要望を聞くといった活動をコストをかけずにやるという事ならやった方がいい。</p>	<p>DXなど、新たな技術を活用することで、広範囲に渡る市域において、自宅から目的地までのスムーズでストレスフリーな公共交通移動を支えるために、行政や各運行主体が連携し、検索から予約、決済が一括でできるサービスの導入を目指すこととしておりますが、現時点では具体的な施策は決定しておりません。いただいたご意見は、今後具体的な事業を検討する際の参考にさせていただきます。</p>
<p>過去の評価（PDCAのC）を書くか、別資料として示すべき。評価は成果を数字で出し、数字を金額に換算し、金額からその事業に関わった市役所職員の人件費や建物の維持費等全ての費用を含めたコストを引いた数字がプラスなのかを示すべき。マイナスになる物は、義務的にやらなければいけない物を除きやめるべき。成果を計測する為には、何もなかった場合にどうなるのかのデータ収集が必要。コストを計算する為には、市職員が何に何時間使ったかのデータ収集が必要。・過去の評価を踏まえて今回はどのような成果の為に、どれくらいのコストをかけて、何をしようとしてるのか、具体的な結論を書くか、いくつかの選択肢を示すべき。</p>	<p>これまでの計画の評価については、資料編に掲載しております。コスト面については、市民生活の移動支援の在り方との比較考量が必要となりますので、いただいたご意見は、今後具体的な事業を検討する際の参考にさせていただきます。</p>
<p>概要版はもっと簡潔にするべき。計画案に結論があれば簡潔にできる。</p>	<p>概要版は、計画本編の内容を抜粋し、おおまかにまとめたものであり、ホームページなどには簡潔な紹介も、今後行うこととしております。いただいたご意見は今後の参考にさせていただきます。</p>
<p>鉄道は本数が少ないし、駅前に何もないので使えない。</p>	<p>いただいたご意見につきましては、鉄道事業者へお伝えいたします。</p>
<p>路線バスの路線図が分かり難い。地図にして欲しい。</p>	<p>いただいたご意見につきましては、バス事業者へお伝えいたします。</p>

ご意見の概要	市の考え方
<p>萩港にバス停が無い。まあーるバスが近くを通るがなぜか止まらない。比較的近いバス停は、見島便の降り場からは近いが相島便の降り場からは遠い。バスを待たなければいけないわけだから、港の待合所で待っていて、バスが来るのが見えてから歩いて間に合う位置にあるべき。</p>	<p>バス停の位置などについては、道路の安全確保の観点から、現在の位置としておりますが、いただいたご意見は今後の参考にさせていただきます。</p>
<p>まあーるバスの経路が使いづらい。経路が違う二つの路線があるが、経路は同じで逆方向が欲しい。行くことはできても帰れないのでは意味がない。辺鄙な所をながなが回りすぎ。そういう経路があってもいいが、基本はバスセンターを中心とした放射状とするべき。経路が長いと運行間隔も長くなるので短くするべき。バスセンター→東萩駅→萩港、バスセンター→ザ・ビッグエクストラ萩店→萩駅→市民病院の2路線（復路を入れれば4路線）でいい。バスセンター→玉江駅があってもいいが優先度は高くない。菊が浜、遊覧船乗り場、シーマート、松陰神社等、観光目的の場所は自転車、タクシーを利用してもらうか、シーズンに臨時便を出せばよいと思う。</p>	<p>まあーるバスのルートについては、今後も利用者の声などを反映して、適宜変更などを検討して参ります。いただいたご意見は今後の参考にさせていただきます。</p>
<p>市役所や明倫センターに用事があることはめったにないので、そこをバスのハブにしないで欲しい。バスセンターを拡張するなどして便利な場所をハブにして欲しい。もしくは、市役所を移転し、今の市役所建物をバスターミナル兼商業施設にして欲しい。ついでに言うと、裁判所、美術館、ハローワーク等、大きな公的施設を市の中心に作るのはやめて欲しい。1年に1回も行かないような施設が中心にあるのは市の発展に望ましくない。市の中心のスーパー建物内とかに出張所のようなものがあるのもいいと思うが、大きなものは中心を外して欲しい。（県や国の施設であって、市が決めたわけではないかもしれないが）</p>	<p>公共交通施策だけでなく、まちづくりの観点でのご意見でありますので、今後の参考にさせていただきます。</p>

ご意見の概要	市の考え方
<p>公共交通財政負担額の年3万はかけすぎ。全く利用しない人や0歳児も含めて月2千5百円徴収しているという事であり、額が大き過ぎる。乗車乗船料金を上げて、頻繁に利用する人の為に大幅な割引のある月間パスを販売するといった方が額は少なくなるのではないか。</p>	<p>コスト面については、市民生活の移動支援の在り方との比較考量が必要となりますので、いただいたご意見は今後の参考にさせていただきます。</p>
<p>まあーるバスを安くする必要はない。安くても使う気になれないような利便性のものがあっても意味がない。500円で乗り放題を最低料金にして、10人乗りくらいのマイクロバスにして、財政負担をゼロにして、15分毎運航にして、経路を改善して便利にしてもらった方がいい。バスを小さくすると乗り切れなかった場合や、車椅子の人への対応が心配になるかもしれないが、運営上の問題で予想される事は次善策を用意しておき、事例が積み重なった時点で改善策を検討すればよく、まずは赤字にならない事を優先すべき。</p>	<p>まあーるバスの利用料金や仕組みについては、移動実態などを踏まえた上で検討する必要がありますので、いただいたご意見は今後の参考にさせていただきます。</p>
<p>萩循環まあーるバスに定期券を導入してほしい。定期券があれば、もっと利用促進につながるのではないか。</p>	<p>まあーるバスの利用促進をはかる上でも、いただいたご意見を踏まえ、定期券の導入について、検討していきます。</p>
<p>旧町村から、どのように乗ったら便利かわかるバスの時刻表があれば良いと思います。1日観光をまわる人にも便利なマップがあれば良いと思います。</p>	<p>地域別の公共交通利用ガイド作成の検討を進め、市民の皆様のおでかけのきっかけづくりと、利便性の向上につながる情報提供に取り組んでまいります。</p>